



2021-22 年度テーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

第 2670 地区

宿毛ロータリークラブ会報

■会長	保田 孝司
■幹事	岡崎 利久
■SAA	小栗 学
■クラブ奉仕委員長	有田 裕彦
■職業奉仕委員長	池 和明
■社会奉仕委員長	筒井 大八
■国際奉仕委員長	増田 博和
■青少年奉仕委員長	二神 雅彦

■例会日：毎週木曜日 12:30～13:30
 ■例会場：宿毛市幸町 秋沢ホテル
 ■事務所
 〒788-0003 高知県宿毛市幸町 6-43
 TEL 0880-63-3416 FAX 0880-63-3417
 URL <http://www.gallery.ne.jp/~sukumorc/>
 E-Mail sukumorc@mb.gallery.ne.jp

例会報告 第2730回 令和3年10月21日（木曜日） 天気：晴

■例会司会：小栗 SAA
 ■開会点鐘：保田会長
 ■Rソング：我等の生業
 ■お客様：

四つのテスト 言行はこれらに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

■会長報告 保田会長

季節も10月20日を過ぎましてぐっと寒くなり、もうすぐ冬が来るんだなという感じになっております。コロナも少し落ち着いた感じになっているようですが、十分に気を付けてください。

今週末、私と幹事それと池会員の3人で地区大会に行ってみます。

■幹事報告 岡崎幹事

■ガバナー事務所より：

- ・地区大会youtube配信のお知らせ
- ・2022-2023 ローターリー財団補助金管理セミナーのご案内

■中村ロータリークラブより：

- ・第11回ガバナー杯野球大会前夜祭のご案内

■宿毛市環境課より：

- ・宿毛市グリーンデー（市民総参加の清掃活動）の実施について

欠席届 9名

■委員長報告

企画担当委員会 有田委員長

来週は桜公園に上がって掃除をして写真を撮る予定にしています。雨の場合はこちらで会長の報告を聞くこととなります。大島小学校の教頭先生から、そろそろタイムカプセルを掘り起こす時期じゃないかと声掛けされましたが、調べましたら二年後でした。

大島小学校の三年生が総合の授業で大島桜公園の事を学校で調べています。一緒に上にあげたいとのことですが、学校の都合に合わせないといけないので学校から連絡が来次第集まれる方で参加しようと思います。

大島桜公園担当委員会 竹田委員長

大島桜公園の歩道の枕木の取り付けが昨日から始まりしました。予算の都合もあり全長40mの所に直径10cmの枕木100本を配置して取り付けます。

吉尾造園さんが草を刈ってくれていました。

■プログラム 有田委員長

卓話 田淵会員

タクシーの現状の話をしようと思います。タクシーが今、どういう状況かというのは皆さん分かります。

タクシーが誕生したのは大正元年1912年8月5日という事になっています。認可されたのがこの日らしく実質はもっと早くからタクシーの仕事は始まっていたんじゃないかという説もあるようです。ちなみに宿毛ハイヤーは昭和16年4月23日に登記されております。最初は真町のまるふくさんと中須賀の西山石油さん、そして金沢さん、この三名で宿毛ハイヤーを運営されてたようです。その中でどういう経緯があったかわかりませんが最終的には金沢さんが一人でされていたようです。その当時はタクシーの運転手は花形だったらしく、私が和田でタクシーを始めたのは36年前になります。その時によく義理の父からよく聞かされましたが、結婚式の時に花嫁を

積んで行きますが、その時に必ず雇われて結納などの時に上座に座らせて頂いてご馳走になった時もあったようです。タクシーの売上よりチップの方が多かったという良い時代があったようです。私が始めた36年前も景気は良くそれから徐々に下り坂になっていく状況ではあったんですが、勤務形態は今とは違いますが一人の運転手が月に90万売上げたこともありました。

小泉内閣の時に規制緩和があり、宿毛ではそれほど影響はなかったんですが全国でタクシー会社が増えたり台数が増えたりしました。平成13年の時のタクシーの台数が208,053台です。規制緩和によって平成19年がピークになりまして222,522台という風に全国でタクシーの車両が増えました。この規制緩和は日本のタクシーの中では、アメリカでも以前同じように規制緩和でタクシーの台数が増えすぎて台数を減らせとなった経緯があるにもかかわらず日本でも同じことをやりました。先は見えてたとは思いますが令和元年の台数が181,900台、平成13年からピークの平成19年までの間に車両が14,469台増えました。その後、平成19年から令和元年までの間に40,622台減りました。どう考えても施策が失敗だったとわかんと思います。宿毛でも跡取りが居ないと言う関係もあって2,3社が廃業することになりまして隣の四万十市でさえ4社くらい廃業しました。高知県の法人のタクシー業者は115社あって車両が1,085台、福祉車両の業者が87社あって車両が147台です。宿毛ではまだ福祉タクシーを導入してやっていないんですがハイヤー協会の方からも福祉車両を入れてやってくださいという要望が来ています。

福祉車両の事なんです、筒井先生から私が和田でタクシーに係るようになってからそれほど経って無い時に福祉車両をと話をされてました。今なら出来ていたんですが、和田タクシーが3台の時に福祉車両を別に入れて運営していく自信もなく車両自体も良い車両がありませんでした。今なら福祉タクシーを兼用して普通のタクシーとしてやれるような車両がいっぱいありますが当時はなくて、筒井先生の先見の目は凄かったんだと改めて思っています。これから先も福祉タクシーを入れてやろうかなという気にはなっていないんですが先はまだわかりません。

皆さんご存じかもしれませんがタクシーの運賃の形態、タクシーの料金は2,3年前に上がったんですが、それまで25年くらいタクシー料金としては上がっていません。ただ消費税が上がってそれを上乗せする形になって料金が上がっているんでお客様からすれば料金が上がったイメージがあるかもしれません。景気が悪くなる中でタクシー料金が上がるんで利用客が減るんじゃないかという心配や乗ったお客様から料金が安いという話を聞かされるかと思ったんですが、それは幸いなことにありませんでした。タクシーの規模ですが全国的になんですが、各社台数をたくさん保有しているのかと思ってましたが全国で10台までの車両を持って運営している法人は全体の70%もあるそうです。50台以上になると12%くらい、100台を超えるのが3%切れるくらいな感じです。あまり車両を持ってやってないんだという事がわかりました。

タクシーを運営するにあたっての原価構成は人件費が60～70%、燃料費が6～7%、車両の償却が1.9%、修繕費が2.4%、保険が2.8%、その他の経費が12～13%です。

運転手の人数ですが、景気が悪いという事もあります。運転手の年齢が全国的に高くなっています。宿毛でも、弊社では幸いなことに70代の方が1人、他の方は60代中盤までの方が携わってくれています。全国的には高齢なうえに人手不足に陥っています。昭和63年の時の乗務員の人数が377,713人、令和元年では261,000人になっている状況です。自分としては給料が少ないという事もあると思うんですが、若者には割としやすいというか普通の職種より休みは多いです。月に10~12日くらい休みがあつて、その代わり1日の拘束時間が長いんでどうかと思うんですが若者に向いている職種ではないかと思うんです。それに見合う収入がないと難しいのかなと思っています。なのでこれから若い年齢の従業員を雇って行く為には確定させた給料をある程度の額を取れる設定にしていかないと中々人材が不足して困って行くのではないかと思います。

タクシーの勤務形態として日勤とか隔勤とかあります。宿毛の場合は日勤のやり方でやってますが、今は労働時間がうるさいんですが自動車の運転手についてはタクシー以外でも割と緩和されてる部分がありまして、36協定を結ぶと1日の拘束時間も長く取れてタクシーの場合は最大で322時間拘束することが出来ます。当然その間では休みも与えないといけないんですが2024年から見直しがあるようですが現時点では自動車運転手については現行のまま進みそうな感じはあります。もちろん労働時間は出来る限り下げてくれと労働基準局から要請はあります。

タクシーも社会貢献をしなければいけないと話も出ておりますが、よく消防から〇〇が居なくなって探してますとか放送がありますが、出来ればタクシー会社にはもっと早いうちに連絡を貰えればもしかすると歩いているところを見かけるかもしれせん。実際、深夜に病院に入院している方がパジャマとスリッパで歩いているところを見かけて近くの病院に連絡したこともあります。早く教えてもらえれば運転手も気を付けて走ることが出来ます。

最後にタクシー事業として総合安全プランというのを出しているんですが2025年までに、乗客の死者数をゼロ、飲酒運転をゼロにしようと、令和7年までの死者数を23人以下、重傷者数を630人以下という風に安全プランを計画してそれに向けて努力をしてくださいと要請を受けています。

■出席報告

56.52%